



親子で田植え 2016年6月19日(日)

畿央大学附属幼稚園では、食育の一環としてお米作りに取り組んでいます。近隣の農家の方に教えていただきながら、初時きから稲刈りまで園ですべて行っており、6月の家族参観では、親子で泥の感触を楽しみながら貴重な田植え体験が出来ました。12月からは給食で新米を美味しくいただいています。(P.13参照)

特集

地域とつながる冬木学園

— 地域連携の取組み —

TASKメンバー座談会

畿央大学では開学以来、地域で運動教室や体力測定、介護予防、認知症施策などさまざまな健康増進のための取り組みを行ってきました。在学生もこうした活動に積極的に参加しています。今回は、学生主体の健康支援チーム「TASK」で各学科のリーダーとして活躍している学生に、学内外での活動を通してどのような学びを得たのかを話していただきました。



地域住民の健康づくりをサポートする「TASK」で学びを実践

松本 みなさんは、健康支援学生チーム「TASK」(タスク/Think・Action・Support for Health by Kyo University Student)の各学科代表として活動に積極的に関わっていらっしゃいます。畿央大学では、全学生の体力測定データをウェブで確認・管理できる「学生向けの健康支援プログラム」に取り組んできました。その取り組みを地域住民の健康づくりにも活かすことを目的に、学園祭などで地域住民向けの健康チェックを実施していました。それらの活動を継続しつつ、教育につなげる



健康科学部 理学療法学科 助教
ヘルスプロモーションセンター
松本 大輔

ために、先生方のサポートのもと、学生が主体となって健康支援について学び合うチームが発足しました。それがTASKです。では具体的に、TASKの活動内容を教えてください。

森安 TASKが結成されたのは、2013年の秋です。当初は23名から

のスタートでしたが、現在は全学科で100名ほどの学生が参加し、大学で地域住民の方々の健康チェックを行うほか、幼稚園での体力測定、高齢者福祉施設での健康づくり体操の指導などを行っています。また、各学科の学生が持ち回りで勉強会を開き、TASKの活動や学びに生かしています。

松本 そうした活動に、なぜ参加しようと思ったのですか。

浅野 新入生の時、健康診断で先輩たちが測定をしているのを見て、単純にカッコいいな、と思ったんです。また、大学で何かを続けたいと思い、参加を決めました。

森安 1回生の時にキャリア関係の授業で、学生は「家—アルバイト—大学」

の三角形ループに陥りやすいと聞いて、それを避けるためにいろいろな活動に参加するようになりました。そのひとつがTASKだったんです。

前原 私は広陵町が行う健康診断のボランティアスタッフに興味を持ったのがきっかけです。参加してみても、TASKのメンバー同士の交流に魅力を感じ、ボランティアではなくチームの一員として関わりたいと思いました。また、大人の方々と話す機会が多いことにも惹かれました。

松本 前原さんは小学校教諭をめざしているんですね。子どもたちを相手にする仕事に就くのに、中高年の方々が集まるイベントに参加したのは、どうしてですか。

前原 イベントには子どもたちもたくさん来てくれますし、教師になったら保護者の方々との関係づくりも大切になってきますから、学生のうちに中高年の方々と接して、将来に役立てたいと思ったからです。



地域の方々の体力測定(畿央祭ウェルカムキャンパス)

藤田 僕が参加を決めたのは、2回生の時です。ボランティアとしてイベントに参加したのですが、当時は人間環境デザイン学科の学生がいなかったため、TASKの方に「人間環境デザイン学科の最初のメンバーになってくれませんか」と言われたんです。その誘い文句に惹かれて入りました(笑)。

辻村 私は、大学生になったらボランティアをしたいと思っていたので参加することにしました。また、測定を体験でき、地域の方々と関わることも魅力を感じました。

活動を通して成長し 新たな可能性が見えてきた

松本 TASKで活動して、よかったことは何ですか。

浅野 これまで知らない人と話すことがほとんどなかったのですが、社会勉強になりました。卒業後は、患者さんと接することになるので、学生のうちに地域の方々と関わることで、いい経験になったと思っています。

森安 子どもの頃から人見知りや激しかったので、その弱点を克服したいと思っていました。活動中は地元の高齢者の方々ははじめ、先輩や後輩、子どもたちと接し、いろんな話ができてとてもよかったです。

救急救命の基礎を学べるのもメリットだと思います。大学2回生の時、駅で女性が突然倒れたのに、驚いて何もできなかったんです。その時、勉強しても何もしないのなら意味がないと気づき、その後はしっかり勉強に取り組みようになりました。今は、そばで誰かが倒れても、助けようと行動できると思います。

藤田 僕はもともと、リーダータイプで



健康科学部 健康栄養学科4回生
森安 葵さん

はなかったし、ボランティアにも興味はなかったんです。でも、TASKに入ってから変わりました。当時は人間環境デザイン学科でただ一人の学生だったので学科リーダーにならざるを得なかったのですが、それをきっかけに変わったような気がします。今、大学でさまざまなボランティア活動に参加し、リーダーシップを発揮していますが、そのきっかけはすべてTASKなんです。

松本 その経験は、今後も生かせそうですね。

藤田 はい。実は今、アパレル関係に就職するか、テレビ番組の制作の仕事のどちらかをしたかと思っています。それは、学科リーダーになって先輩ができ、自分から発信することに面白味を感じたからです。社会に出てからも発信し続けるためにマスコミ関係の仕事にも就きたいと考えるようになりました。

松本 TASKでリーダーになったからこそ、新しい方向も見えてきたんですね。

藤田 もう一つ、TASKに入ってからだったのは、ユニバーサルデザインを理解できるようになったことです。以前は、高齢者と接する機会もなかったのですが、ユニバーサルデザインを具体的に考えられなかったのですが、体力測定

に関わるようになって、高齢者の方々は僕たちと同じように見えているわけではないと気付きました。それからは、高齢者の目線でものづくりができるようになり、成長を感じています。

森安 私は、就職活動で生かすことができました。TASK以外にもレシビ開発のプロジェクトやKIO元気塾といったさまざまな活動に取り組んだので、積極性をかわれて内定をいただけただのだと思います。卒業後は、大手企業の社員食堂で管理栄養士として働く予定です。

前原 私は、チームでひとつのことを一緒にやってつくりあげていく一体感がいいな、と感じています。また、学生主体でいろいろなことに取り組めたこともいい経験で、楽しかったです。まさに、学びを実践できる場だと思います。

現代教育学科の学生の多くは小学校にボランティアに行っているのですが、TASKに参加する余裕がありません。私も、ちょっとしんどいなと思う時期はありましたが、それよりも他学科の学生と話すことが楽しかったです。他学科の友だちと学び合う中で、考え方やとらえ方に違いがあると知ったのは新しい発見でしたし、そこから多くを学ぶこともできました。小学校でボランティアをするのももちろん大切ですが、他学科の学生と交流することも今後役立つと思っています。

勉強会を行い、 他学科の学生から多くを学ぶ

松本 今、前原さんから、他学科の学生と交流できるということが挙げられましたが、いろいろな学科の学生が参加している良さや、自分の学科だけで取



フードモデルを使った食育勉強会

り進むこととの違いを感じることはありませんか？

浅野 TASKの勉強会は、他学科の学生から学ぶことが多く、学科を越えた活動に参加してよかったです。勉強会は月に一度、学生が持ち回りで行うのですが、二つの学科の学生がコラボレーションして企画するので、健康や自分の将来に役立つさまざまな知識を得られました。

森安 私も勉強会は、ためになると思いました。健康栄養学科が勉強会を担当する時、どう話せば伝わるのか、他学科の学生に相談したことがあります。その時、私たちにとっては当たり前の言葉も、他学科の学生にとっては難しく、伝わりにくいことがわかりました。就職して、社員食堂の管理栄養士になったら、社員の方々に栄養教育をしたいと考えています。栄養の専門知識のない社員の皆さんに何をどう話せば伝わるのかを、TASKの勉強会を担当して学ぶことができました。

藤田 僕は勉強会で、教え方を学ぶことができました。最初は、デザインについて何の知識もない学生に、どう説明すれば理解してもらえるのかわからなかったのですが、ほかの勉強会を見学しました。そこで気付いたのは、座学の後にそれに関連する体験をすれば、身を持って理解できるということです。僕の勉強会でも、座学で説明した後、高齢者の視力を体験できる特殊なメガネをかけてもらいました。

前原 あの勉強会は参考になりました。現代教育学科では障がいについても学ぶので、見え方の違いや色覚タイプの違いがあるというのは知っていました。でも、高齢者の視覚というのは知らなかったので参加してよかったです。勉強会では、自分が知っていることに関係するプラスアルファの知識が得られるので、学びを深めることができると感じています。



広陵町健康・体力測定会メンバー(TASKボース)

松本 基本的には学生の主催ですが、先生方がサポートをしたり、先生からオフアのあったボランティアへの事前研修のような形で行うこともありますよね。以前、老年看護の先生から認知症カフェのボランティアの依頼があり、認知症ケアについての勉強会を開いてもらったこともありましたね。

浅野 認知症に関する勉強会は印象に残っています。患者さんとの接し方や話し方などを教えてもらい、医療現場で生かせると思いました。というのも、勉強会の前に行った臨床実習で認知症の患者さんを担当したのですが、何を言っても伝わらず、どう接していいのか、まったくわからなかったのが、果てていました。でも、勉強会でその課題がクリアになり、参加してよかったと思いました。

松本 授業とは違うから、学ぶことは多いですね。

前原 TASKの活動は自分のためになっていきますが、他学科の学生の役に立つこともあると感じています。以前、大学で健康支援のイベントを開催した時、子どもが来ていたので一緒に遊んでいたら、他学科の学生に「子どもってそんな風に接していいんや」と言われたんです。健康科学部の学生は、子どもとどんな遊びをし、何を話せばいいのかわからないらしく、「もっと、



教育学部 現代教育学科3回生
前原 葵さん

前原 他学科で何を学んでいるのかを聞くのは楽しかったです。また、測定会では、学科ごとに地域の方々への対応の仕方が違うと気付きました。たとえば現代教育学科の学生は、保護者や子どもに接するように対応するのですが、理学療法学科の学生は患者さんや高齢者の方々に接するように話をするんです。また、看護医療学科の学生は、器具の扱い方の説明や資料の使い方がうまいと思いました。各学科の学生の様子を観察して、誰にどのように接すればいいのかが変わり、勉強になりました。

辻村 健康栄養学科が担当した勉強会で、食育SATシステム(フードモデルを使ったカロリー計算)を教わったことが印象に残っています。勉強会では新しい分野を学び、違う体験ができるので楽しいです。

松本 みんな、チーム医療は学んでいますが、授業で学ぶこととTASKで体験することは違うので、新鮮に感じることですね。自分たちでつくっていることにも、やりがいを感じているのではないのでしょうか。

藤田 そうですね。それに、学生から教えてもらえるのが、TASKの勉強会のいいところだと思います。

松本 先生に教えてもらうのなら、結局は授業と一緒にすもんね。



健康科学部
人間環境デザイン学科3回生
藤田 直樹さん

子どもとの接し方を教えてほしい」と頼られました。

地域貢献や将来につながる ボランティア活動

松本 TASK以外に取組んでいることはありますか？

前原 地域行事の一環で、地元の小学校に体力測定のボランティアに行ったことがあります。いくつかの小学校に行かせてもらいましたが、小学校での体力測定は、養護教諭免許の取得をめざしていない限り体験しないので、貴重な機会でした。測定をしている時に小学生を見て気づくこともありますし、彼らの会話から小学生が体力測定をどうとらえているのかもわかります。また、その活動を通して、子どもたちの体力が向上しているのか、あるいは低下しているのか、といった変動も知ることもできました。体力測定は現場に出て初めて経験するものですが、学生のうちに体験できてありがたかったです。

藤田 熊本地震の後、現地にボランティアに行きました。災害復興ボランティア部「HOPEFUL」のメンバーとしても行きましたが、個人でも行きました。熊本県は、祖父の出身地ということもあり、縁を感じています。

僕はおじいちゃん子で、小学校から高校まで学校帰りに、祖父の家に寄るのが好きでした。今は認知症になり、僕のこともわからないくらいになっているので、祖父がすっかりしているうちに何かしてあげたかった、と悔やんでいました。そんな矢先、熊本地震が起こったので、祖父の出身地のために何かしたいと思ったのです。それが、祖父への恩返しになれば、と思いました。

現地ではさまざまな作業をしました。夏休みには小学校の体育館で避難生活をされている方々と話をさせていただきました。高齢の方も多かったのですが、TASKで高齢の方々と接したことが生かされたと思います。

被災地支援活動を続けている一番の理由は、熊本地震を風化させたくないからです。募金活動も定期的に行っていて、2017年4月にも予定しています。

KAGUYAプロジェクトで 広陵町民の健康を支援



介護予防リーダー養成講座

松本 2015年、畿央大学は、文部科

学省の助成を受けて、広陵町とタッグを組んで地域の健康づくりを促進することに。KAGUYAプロジェクトと名付けました。これは、地域で活躍する学生ボランティアや住民リーダーを育てながら、さまざまな健康データを集めてその関係を調査することで広陵町の健康状況を「見える化」し、「どんな要因が健康に影響するか」を探る。地域密着型研究プロジェクトです。(9ページ参照)

TASKはその事業の一つの柱になっていますが、むしろTASKがあったからこそ、このプロジェクトが実現したと言えると思います。TASKでは、これまでのように大学中心のイベント型の健康支援を行うとともに地域にも繰り出し、健康支援を進めることになると思います。また、学生がタブレットPCを活用し、今後需要が高まるICT技術を取り入れた形で関われるよう準備を進めているところです。大学で得た技術や知識をTASKで実践的に生かしながら学習することで地域貢献につながる、という好循環を生み出していると思いますが、みなさんはどう感じていますか。

前原 地域貢献といえるかどうかわかりませんが、大学が健康支援をしているから地域の方が来てくださる、私たちが皆さんの思いにお応えする、するとまた来てくださる、というサイクルは目に見えてわかります。他の大学はサークルと同じ学科内など、仲間うちでの活動に留まりがちですが、畿央大学では松本先生がおっしゃるようにKAGUYAプロジェクトが始まりました。今後、地域の方々と交流する機会はさらに増え、学ぶことも多くなるだろうと思っています。

TASKに参加し視野を広げ 学びを深めてほしい

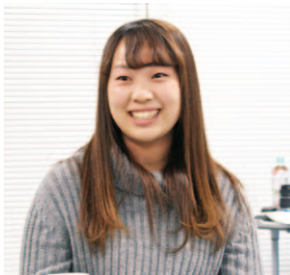
松本 では、最後に後輩にひと言、メッセージをお願いします。

藤田 人間環境デザイン学科の学生もボランティア意識を高めてTASKに参加し、活動の幅を広げてほしいと思います。TASKではデザインの需要は高いと思いますし、ユニバーサルデザインの観点も養えると思います。

森安 TASKでは、話したことのない人たちと知り合う機会がたくさんあります。特に勉強会には多くの学生が参加しているので、友達をつくるチャンスだと思っています。

「友達が行かないから行かない」という人はたくさんいますが、私は自分の向上や成長に役立つと気付き、一人で参加しました。仲良し倶楽部を楽しむための活動ではないので、一人でも参加してみてください。

前原 現代教育学科で参加しているのは、養護教諭をめざしている学生がほとんどですが、小学校教諭、幼稚園教諭や保育士をめざす学生もTASKで学ぶことは多いと思います。同じ学科の学生だけで学ぶと視野が狭くなりますが、

健康科学部 理学療法学科3回生
浅野 紗也香さん

松本 KAGUYAプロジェクトでは、活動の一環として、畿央大学の看護医療学科や理学療法学科の先生方による「介護予防リーダー養成講座」を開催しています。これは、広陵町と香芝市の住民の方々と対象に、高齢者の健康指導方法などを学んでいただく10回コースの講座です。修了された方々はKEEP(キープ/Koyoro/Kashiba Elderly Encouragement Project)広陵町や香芝市の高齢者を励ますという意)として、地域の運動教室や介護施設、認知症カフェなど、地域の中で高齢者を指導するリーダーとして活動していただいています。その方々とのコラボイベントもありましたが、参加されましたか?

浅野 はい。「畿央大学シニアキャンパス」に参加したのですが、畿央大学は地域住民の方々から愛されていて、皆さんから「一緒に何かをつくり上げていこう」という気持ちで伝わってきました。地域の皆さんに健康に関心を持ってもらうのはいいことだと思いますし、健康支援活動に関わりたいたいと言ったくださるのも嬉しいです。ただ、こうしたイベントに参加されない健康意識がそれほど高くない方々がいるのも事実です。今の課題は、そうした方々にも目を向けていくことだと思っています。



畿央大学シニアキャンパス(TASK×KEEPが協働)

浅野 TASKには理学療法学科の学生が多いので、他の学科の学生から学ぶことを意識して活動していました。知らない人というより、同じ学科の友だちというほうが楽かもしれません。でも、それでは意味がないので、これから参加しようと思っている人は、他学科や話したことのない人と交流するようにして、活動を有意義なものにしてください。

辻村 看護に関することだけでなく、他学科の学生が勉強していることも学べるので面白いです。学びや考え方が偏らないのがいいな、と思っていますので、一度、活動を体験してみてください。

健康科学部 看護医療学科3回生
辻村 理紗さん

松本 それは面白いですね。届け方を考えていけばいいと思います。また、KAGUYAプロジェクトでも、「健康意識の低い人に来てもらう」という課題はクリアできると思います。これまでは、地域の人々に来ていただくために学内でイベントをしてきましたが、KAGUYAプロジェクトが始まったことを受けて、小規模のチームがキャラバン隊のように各所を巡るようになると思います。そうすれば、健康意識の低い方々も「家から近いから行ってみようかな」と思ってくくださるかもしれません。広陵町もサポートしてくるので、保健師さんと連携して、これ

森安 確かに、大学に来てくださるのは、元気な人が健康に関心のある人ばかりです。ですから、健康に関心のない人にも来ていただき、健康づくりの大切さを知ってほしいな、とずっと思っていました。

そこで考えたのですが、健康に関心を持ってもらう仕掛けとして、専門店を利用するお客さんに有益な情報をフリーペーパーで提供してみてもどうでしょうか。たとえば、散髪屋さんに配布するフリーペーパーには、髪を健康にいい食品とか、髪をツヤツヤにするには何を食えばいいのか、といった情報を掲載するんです。そうすれば、見てくれるかもしれませんね。

畿央大学における 学びの姿勢と地域連携

冬木学園 理事長 畿央大学 学長 冬木正彦



冬木学園の各校においては、「建学の精神」徳をのぼす、知をみがく、美をつくる」を体得し、豊かな人間性を備え、よりよい社会づくりに貢献できる人材の育成に取り組んでいます。畿央大学では、建学の精神を教育の基本理念に置き、健康科学、教育学分野において、豊かな教養と知性を備えた高度な専門職業人を育成することを目的として、次のような特色のある教育を実践しています。

①全ての学科で人と関わり命と向き合う職業をめざすため、命の尊さや生命倫理について深く理解できる全学必修の教養科目として「生命倫理」を設けています。

②教育計画であるカリキュラムについて、健康科学部においては専門分野に対応した資格取得のためのカリキュラムを充実し、教育学部においては教員免許状や資格取得に必要な科目を開設し、知識・理論と技術がバランスよく学べるカリキュラムにしています。

③教育実践では「体験型」授業を重視しています。実験・実習などの体験型授業は、学内はもちろん、学外の医療機関、福祉施設、保健所、企業、教育機関などでも実施されています。実習では、事前指導や実習後のレポート提出などにより、実践的な知識の定着と職業観の育成を図り、さらに学部や学科の枠を越えたコラボレーション(協働)を行える取り組みも進めています。

④授業方法として推奨されているアクティブラーニングを促進するため、2014年度入学生より1人に1台、タブレット型ノートPCを貸与し、学内で自由に使えるWi-Fi環境を整えています。これを使って問題の分析やプレゼンテーション力を向上させ、情報活用能力を高めることが期待できます。

ようなことを意識して学びを進めていただきたいと期待しています。

一つ目は、専門分野の知識と技術を学ぶ場合に、学習内容あるいは科目が、その分野での知識体系の中で、またカリキュラムの中でどのような位置にあるかを意識することです。このことは、学ぶ対象が「何であるのか」との本質的な理解につながります。さらに、覚えるだけでなく、なぜそうなのかとの疑問を持つことです。疑問がより深い理解につながり、「分かること」の楽しみ、面白さを味わわせてくれます。

二つ目は、幅広い好奇心を持つことです。歴史や文化、自然に関する関心を持ち、機会を捉えて情報を集め知識を広げてほしいと思います。好奇心を持って他の人と接することはコミュニケーション力を高め、豊かな教養と知性を備えることにつながります。

さて、今回の特集のテーマとなっている地域連携・社会貢献活動に参加することは、前述の二つ目の実践につながる良い機会であると考えます。これらの活動には、学外の方が主催者あるいは参加者として関係します。これらの方々と協働するためにはコミュニケーションが必須であり、人間関係を深めるには幅広い知識と生き様に関する理解・共感が求められます。学生の皆さんは、そのようなニーズを受け止め自主的な学びの原動力にして欲しいと願っています。

有難いことに、卒業生の活躍や地域の方々のご支援の中で、畿央大学の学生の皆さんの活動は高く評価されています。地域連携活動に参加される学生の皆さんは、自信と誇りをもって取り組んでください。

最後に、地域連携活動や実習において学生の学びを支えていただいている学園関係者ならびに地域の皆様方へ心より感謝申し上げます。

地域連携と研究活動

大学 広陵町×畿央大学 KAGUYAプロジェクト

1. ヘルスケアデータをまとめた データベースの構築

大学と地域が持っている身体測定や運動教室の測定データや住民調査結果等の健康データを一元化し、結果を広陵町にフィードバックしていくことで、より効果的な施策の実現をめざす。

2. 健康状況を簡単に確認できる アプリ開発

高齢者やICTが苦手な世代でも扱えるタブレット用アプリを研究開発し、簡単に健康状態や認知症チェックができるようになる。

3. 住民リーダー(介護予防リーダー等) の育成

健康啓発・認知症・介護予防のための住民リーダーを養成することにより、地域住民が地域や住民同士の結びつきを深め、地域住民の健康意識向上を図る。

4. 住民の健康支援を学生チーム(TASK) が行うことによる教育的実践活動

健康支援学生チームTASKが地域住民とつながることで、地域の活性化と学生の実践教育の効果を高められる。

畿央大学では開学以来、地元広陵町と連携し、運動教室や体力測定、介護予防、認知症施策などさまざまな健康増進のための取り組みを行なってきました。

平成27年度には、畿央大学が奈良県で初めて文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「ソーシャル・キャピタル創出とヘルスケアデータ一元化による地域包括ケアシステム研究拠点の形成」のテーマで採択され助成を受けることになりました。本プロジェクト

トは、「Keeping Active across Generations Uniting the Youth and the Aged」(若者と高齢者が一丸となり、世代をこえて、住民が元気でいきいきと暮らせるまちづくりをめざす)という思いと、大学の所在地でもある広陵町が竹取物語のかぐや姫誕生の地といわれていることにちなみ、「KAGUYAプロジェクト」という愛称がつけられました。

現在、大きく4つの事業に取り組んでいます。

住民は、自分の健康関連データを総合的に観点から読むことができ、地域が活性化され、健康知識を持つ住民リーダーや地域とのかかわりが期待できます。

町全体としては、住民への健康情報の提供と効果的な指導、ソーシャル・キャピタル(地域のつながり)による住民間の健康格差が縮まり、将来的に医療費削減につながることも期待されます。

本プロジェクトでは、2016年3月に広陵町住民の65歳以上の高齢者約8,000人全員に「健康長寿のヒケツ」についてのアンケート調査を実施しました。ソーシャル・キャピタルの一つの指標として、見返りがなくとも、他者のため・地域のために実践して

いる方は、実践していない方よりも健康的な生活習慣で、病気が少ないことが明らかになりました。また経済的格差の解消に向けた取り組みの必要性、実践している地域住民に住民リーダーとして



関与してもらうなど、多様なアプローチの可能性を示唆する研究結果となりました。今後、も研究を推進し、成果を地域住民に還元していきたいと思えます。

地域連携 成果物紹介

近鉄SAフードコートメニュー
開発プロジェクト

健康栄養学科は2014年より近鉄リレーリングと連携して「近鉄SAフードコートメニュー開発プロジェクト」を進めています。3年目となる2016年は主要食材に奈良ブランド豚であるヤマトポークを使用した「丼物メニュー」のコンテストを実施しました。

学生が考えた4つのメニューが実際に販売されています。



●西名阪自動車道 香芝サービスエリア

「ヤマトポークとねばねばアボカ丼」(上り線) … 840円
「まほろば大和のうわし豚丼」(下り線) … 720円



詳しい情報は、QRコードよりアクセスしてください

●阪和自動車道 岸和田サービスエリア

「ヤマトポークのトントン丼」(下り線) … 900円
「1杯で2度美味しい♪一石二豚丼」(下り線) … 900円



橿原市・橿原商工会議所との連携
レシピ開発プロジェクト

橿原市・橿原商工会議所との連携は2009年に始まり、8年目の2016年は「イチゴを使った新商品開発」をテーマに健康栄養学科1回生58名が参加し、イチゴの特性を生かしたメニューを開発しました。

7つのレシピが新商品のアイデアとして採用され、2016年12月より橿原市内の6店舗にて提供されています。

- 苺と生ハムのクリームパスタ(グランプリ)
- かしじんようかん(準グランプリ)
- 奈良の宝石コロッケ(審査員特別賞)



詳しい情報は、QRコードよりアクセスしてください

大学 「サイエンスアゴラ2016」で
JTS 賞・フジテレビ賞のW受賞!



ミッション2

にコース上を走行させよう!
電磁石の仕組みを理解してお
もちやをつくらう!

多くの理系大学や企業が参加していた中で、KSCCの企画が「JST賞」と「フジテレビ賞」のダブル受賞となりました。「JST賞」は、日常の取組が評価されたものです。KSCCは、子どもに科学の

11月3日(木)〜6日(日)東京お台場で開催された「サイエンスアゴラ2016」にKSCC(畿央大学サイエンスコミュニケーションサークル)が出席しました。「サイエンスアゴラ」は科学技術振興機構(JST)が主催し、全国から200を超える企画が参加する科学フォーラムで、4日間で8000人を超える観客が来場しました。KSCCは「科学にチャレンジ!親子でミッションをクリアしよう!」で、2つのミッションを行いました。



楽しさを伝えるために現代教育学科奥田俊詞准教授と看護医療学科福森貢教授が取り組んでいたレゴロボットのプログラミングや天体観測の指導に賛同して誕生したサークルです。KSCCは、奈良県橿原市立こども科学館なども連携し、地域ネットワークとしても大きく評価されています。「フジテレビ賞」はイベント当日の企画内容そのものに対する評価で、電磁石の仕組みを理解させ工作することが子どもにとってもわかりやすく、遊び感覚でゲーム機を作る大人気の企画であったことから、200以上の企画の中で唯一、選考されました。

大学 咲良史歌鹿ファッションショー

「咲良史歌鹿」は、産官で取り組んできた植物の「葛」から生まれたエコスタイル衣料です。奈良特産の吉野葛のかすを粉砕し和紙に漉きこんで葛和紙を作り、綿と撚糸した生地で作られており、抗菌力、軽さ、吸湿性が特徴です。製品デザインには2年前から人間環境デザイン学科がかかわっています。

11月10日(木)奈良県庁の東回廊にて、畿央大学、奈良県繊維工業協同組合連合会、奈良県地域産業課の3者が主催して「咲良史歌鹿ファッションショー」を開催しました。このファッションショーのプロデュース(衣装、舞台構成、音楽など)は人間環境デザイン学科の村田ゼミ生が行いました。

1部では、県庁職員・学生がモデルとなり、県庁で着るユニフォームと私服の「咲良史歌鹿」を披露しました。2部は、学生が考える「咲良史歌鹿」。村田ゼミでは「自分たちで素材づくりから作品制作まで」をテーマにしたものづくりに取り



組んでいます。奈良で育てた綿、蚕の繭から糸をつくり、染め、織り、編んで制作したものと「葛和紙布」で制作した作品、絹のドレスやベスト、友禅の型染めを施した葛和紙布の浴衣、パッチワークの葛スカート、チューリップ染めのドレス、綿のドレスなどを披露しました。夜の舞台はライトアップされ、とても美しいファッションショーでした。観客席は大いに盛り上がり、テレビや新聞の取材を受けました。奈良県発のエコブランドに今後注目ください!

本園では、学園の教育理念「徳をのぼす、知をみがく、美をつくる」を具現化し日頃の保育に取り組んでいます。行事への取り組み方も、毎回内容を検討・見直して取り組み、終了後に再度振り返り、改善点を次年度に生かしています。特に、季節に重点を置いた行事や地域の行事を大切にしています。今回の新学習指導要領の中では、伝統芸能や地域の文化・伝統に取り組むことが柱の一つになっています。このように地域に根差した伝統を大切に守っていくことも本園の大きな特色ある取り組みの一つです。地域の伝統や昔から伝わる文化を傳承して残しているのは、もしかしたら幼稚園だけではないかと思っています。

本園では、お子様の将来を見据えて、本当の体験・経験にこだわった教育を行っています。最近の教育現場では、安心安全な保育に取り組むことが幼児教育の基本だということをお耳にします。しかし、本園では少しだけリスクを経験する保育を取り入れたいと考えています。それは、幼少期の困難を乗り越えた体験、チャレンジして苦しかったことやステージに立ち緊張して失敗した経験は、大人になってから困難を乗り越えるうえで、大切な糧になると考えているからです。ただ、お子様が困難な時こそ保護者の方がお子様と関わり合いを持つことが大切だと思います。さらに、ご家庭と園とのスムーズな連携がお子様をより一層育てることになると考えています。



近年、幼児教育の研究が大きく成果を上げ、保育の内容について証明もされています。本園でも、新しい知見や取り組みの実践を積極的に取り入れていきます。また、私たち教職員は、お子様の最初の教育機関として社会に活躍できる人材になるための教育を実践しています。お子様の将来を見据え、成長のために本園の活動に積極的に関わっていただくことを願っています。

困難を乗り越えられる力をつける



畿央大学附属幼稚園 園長 宮本 忠史

幼稚園

地域と支えあう

幼児教育

本誌でも何度か紹介していますが、本園では、食育の一環として田んぼで自園米を作っています。実はその田んぼも無償でお借りしています。最初は、地主の方といるいろいろな取り組みの意見交換をしている中で、幼稚園で米作り体験をしてはという話で米作りが始まりました。また、今年度から作付面積を倍に増やすことができました。それも隣の耕作放棄地の地主の方が地域の区長さんから相談を受けて本園に声をかけていただいたからです。さらに、稲の栽培方法も、地域の方がいろいろと自然農法についてレクチャーをいただき、今年からこの農法に切り替えました。

一方、朝倉台の自治会の活動においても、夏の夏祭りや避難訓練に、本園の教職員が参加することで地域の方々の交流を図っています。今後も地域に根差した幼稚園として地域に関わりながら幼児教育に取り組んで行きたいと考えています。

何を知っているかではなく、何ができるか



関西中央高等学校 校長 西川 隆彰

本校の教育目標は、建学の精神「徳をのぼす、知をみがく、美をつくる」に基づく人格形成であり、「学ぶ力」をのぼし、「生きる力」をみがくことです。指針としては、「学力」をのぼす、「考える力」「コミュニケーション力」を育てる、「社会規範」を確かに身につける、「思いやりの心」を身につけて育てるの4点があります。英国の研究で「2013年から20年程度で47%の仕事が自動化される」との予測があり、米国の研究では「2011年度にアメリカの小学校に入学した子どもの65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう」と言われています。

これからは「何を知っているかではなく、何ができるか」が重要であり、学校には思考力を育てる力がより一層教師に求められると思います。本校では、主体的に21世紀を力強く生き抜く力を養うことが重要と認識し、早くからアクティブラーニングの手法を駆使した校内合宿教育の推進、(一部コースで)スマホやタブレットを活用した学習やテストの実施、地域との連携による校外学習なども積極的に実施しています。

一方、いかに時代が変わっても人として変えてはいけないことがあります。よく言われる「不易」という言葉です。本校生には思いやりの心・マナー・アツプ運動、校門一礼や元気なあいさつ運動、毎週始めのHRや全校集会での建学の精神の唱和など、日々の教育活動を通して自己肯定感を醸成することで、自信と誇りを持ち、卒業後は人の役に立つ社会人となることを願っています。

高校

桜井本町通商店街 活性化プロジェクト

奈良県の桜井駅南側にある桜井本町通商店街は、かつては奈良県三大商店街と言われ、非常に賑わいのあった商店街でした。今では営業しているお店も人も少なく、現在は、周辺まちづくり協議会という組織をつくり、なんとか昔の賑わいを取り戻せないものかと試行錯誤しておられます。

そこで高校では一年生の授業「総合的な学習の時間」を使い、地元である桜井本町通商店街の活性化に貢献したいと考えました。取り組みをはじめ今年で2年目となります。

1年目は、商店街の歴史の学習、商店街の課題や要望のヒヤリングに始まり、現地調査をしたり、商店街のポスターを考えたり、営業している各店舗に改善案を提案したりしました。

今年度は、昨年度のアイデアを具現化するべく取り組んでいます。現在のプロジェクトの進捗状況を商店街や地域の方々に知ってもらうために、11月26日に催された「ソラほんまちフェスタ」では空き店舗をお借りして展示をしました。

今後も定期的にフィールドワークを行い、2月に最終報告会でプレゼンテーションを行い、今年度末には通りに設置するベンチ、お店の入口に日除け暖簾などを制作する予定です。



冬木学園を支えてくださるみなさんからのメッセージをご紹介します。

リハビリテーションにおける産学連携



株式会社テック技販 代表取締役
瀬瀬 和美 さん

弊社は京都市宇治市にあるメーカーです。主に大学や企業等で用いられるセンサや計測機器システムについて設計・開発・製造・販売を行っています。特に、様々な分野の研究開発の用途向けに、従来は計測することが難しかったものであっても、計測を実現することが可能なセンサを特別に設計・開発することで、弊社の技術力を高め続けて参りました。

この技術力を認めていただき、弊社で設計・開発をした計測機器を畿央大学の理学療法学科に納めさせていただきました。この機器は理学療法士を目指す学生が訓練用として活用いただいています。また、畿央大学ニューロリハビリテーション研究センターの研究でも、リハビリテーション現場で活用が期待されるデバイスを産学連携の形で継続的に共同研究しています。実は、弊社は1991年の設立以来2010年まで、広陵町に本社を構えおり、畿央大学との産学連携が進んだのも自然な流れのように思います。



息子の成長

北嶋 有希 さん

畿央大学付属幼稚園 さくら(年長)組園児
真弥くん 保護者



畿央大学付属幼稚園には、長男の時から5年間お世話になっていました。次男の真弥が入園した時にはまだ長男が在園していましたが、自分も早くお兄ちゃんのようにになりたい、小さい子のお世話をしたいと、憧れの目で兄や年長児を見ていたのがとても印象に残っています。

年中の時に三男が生まれましたが、誰が教えるでもなく弟のお世話をしたり一緒に遊んだりしてくれ、それも全て幼稚園での縦割り保育から身に付いたことだと思います。

今はお作法・和太鼓・マーチングなど年長児しかできない様々な経験を積みながらしっかりと成長しています。3人の子供達との生活に追われる私にとって、本当に頼りになる息子になりました。

いよいよ卒園が目前に迫っています。付属幼稚園で培ったことを忘れず、小学校へ行ってもお友達に優しく笑顔の絶えない息子であってほしいと願っています。



最後までやり切る大切さ

楠木 愛理 さん

関西中央高等学校
2014年卒業
美容室La mode 勤務



幼い頃から美容師になることが夢だった私は卒業後、美容専門学校へ進学しました。「上手になりたい」一心で練習を重ね、先生方から熱心に指導いただきました。出場した技能五輪全国大会で銀賞を受賞することができた時は嬉しい反面、目標の金賞が取れず悔しさが残りました。「絶対に金賞を取りたい」という目標から、世界で戦う技術を持っている先生がいる美容室に就職しました。深夜まで指導を受けて努力を重ねた甲斐もあり、第44回全日本美容技術選手権大会の出場権を獲得し、ヘアースタイル部門で念願の金賞を受賞、さらに内閣総理大臣杯を最年少受賞することが出来ました。受賞することだけでなく、世界大会に出場することが決まりました。

高校生活で学んだ努力を惜しまず最後までやり切る事の大切さが、今の私を支えていると思っています。私を育てていただいた、沢山の人たちへの感謝を忘れず、更なる技術の向上を目指し、お客様のニーズに合わせた美容師になれるように努力していきたいと思っています。

支え

坂本 絢美 さん

畿央大学 健康科学部理学療法学科 2015年卒業
八幡中央病院 勤務



在学時、卒業研究発表会にて

入職して約半年が過ぎましたが、慣れないことも多く悩みが絶えません。そんな時、私の支えとなるのは大学時代の友人です。学生時代、苦楽を共にした友人は私の悩みを真剣に聞いてくれ、時には良きアドバイスをくれます。

学生時代は勉学にアルバイトと忙しく、充実した日々を送っていました。勉学は得意ではなく投げ出したくなることも多々ありました。しかし、そんな時に友人と話して、遊んで、笑っていると、気持ちを切り替えることができ、勉学に励むことができました。今、思い返すと辛いことではなく楽しいことばかり浮かんできます。それは、友人が辛さを楽しさに変えてくれたおかげで全てを乗り越えることができたからではないかと思っています。

この四年間で一生の友を得ることができたのは私の誇りです。私は胸を張ってこの四年間を誰よりも楽しんでいきます。これからは、共に支え支えられ、みんなとたくさん思い出を作っていきたいです。みんな、楽しい毎日がありがとう。

私の先生

私の教え子

冬木学園では、豊かな知識や優れた技術を教えるだけでなく、心を通わせ、人としての生き方を伝えていく教育をめざしています。冬木学園各校で学んだ、学んでいる教え子と教員との交換メッセージをご紹介します。

林有学 先生「看護医療学科 教授」
みんなのお母さんの存在



看護医療学科2014年卒業
大阪市立大学医学部附属病院勤務
畑田 早紀さん

入学当時から担任で、1・2回生で基礎看護学を教えていただき、4回生では卒業論文の指導をしていただいたりと、林先生には4年間を通して大変お世話になりました。林先生は座学や実技の授業、普段の関わりを通して、人と人との繋がりがや信頼関係の大切さを教えてくださいました。それは、患者さんやご家族に、この人に看てもらいたい

たいな、と思ってもらえるような看護師をめざす私の看護観に繋がっています。温かく優しく見守ってくれ、でもいざというときは力になってくれて、お母さんのように慕われている林先生。看護医療学科3期生の「エゴグループ」名称にも林先生の名前が入っているほどです(笑)
3・4回生では先生の授業は少なくなりましたが、私にご縁があり4年間お会いできる機会が多くあったため、卒業後はなおさら寂しく感じています。
林先生はじめ素晴らしい先生がたくさんいて温かく迎え入れてくれるアットホームな畿央大学に、また遊びに行きます。



畑田さんは、私が口を出さずとも自分のすべきことをわかって実行できる、頼りになる学生でした。実習では、患者さんから教えていただいた諺をその意味だけでなく、なぜ患者さんが大事にされているのか、患者さんのこれまでの人生に通じる思いとともに理解しようとしていました。そのような畑田さんの関わりが患者さんの力になっていったと思います。これからも人として成長し、頼りにされる看護師として活躍されることを楽しみにしています。

長井典子 先生「人間環境デザイン学科 助教」
厳しく・厳しく・優しく



妙本 咲季さん
人間環境学デザイン学科2013年卒業
株式会社 読売奈良インフ動務

お久しぶりです。卒業論文では本当にお世話になりました。長井先生の助けがなかったら、と思うとぞっとします。私の卒業研究は、3回生の時に起こった東日本大震災をテーマに約6か月間、宮城県石巻市でボランティアをしながらの制作でした。その間、2度会いに来て下さったことを憶えています。当時はとても飢えて

いたので、仙台のご実家でご馳走を頂いたり…。帰ってきたのは提出の1か月前で、長井先生の厳しい添削&校正の嵐、私のつたない文章を「伝える」文章へと変換していただき、なんとか提出できました。普段はとても厳しい長井先生ですが、言葉の裏の、頑張りよ、という気持ちを私なりに感じ取っていたので頑張ることができました。今、私は地域情報誌のデザイナーとして働いています。建築とは離れた世界ですが、ボランティアを機に自分のやりたい仕事を見つけ、楽しく「伝える」仕事をしています。またゆっくり当時を振り返りながらお話ししたいです。



ゼミ担当ではない私は「ゼミの子」といえる学生が居らず、淋しい時もあります。しかし、妙本さんは建築制作中心の藤井ゼミに所属しながら、論文をやりたいということで私の指導も受けることになった。いわば「半」長井ゼミの学生でした。
研究の為4回生の大部分を宮城で過ごされていましたが、二度ほど様子を見に行き、一緒にご飯を食べましたね。あのときの嬉しそうな笑顔は忘れられません。これからも自分のやりたいことを貫いて頑張ってください！

永渕泰一郎 先生「教育学部現代教育学科 准教授」
影響力



澤谷 萌さん
現代教育学科2016年卒業
神戸市立保育所勤務

私は昨年の3月に大学を卒業し、現在は生まれ育った街で保育士として働いています。毎日個性溢れる子どもたちとにぎやかに過ごしている中で、「ああ！こういうことか！」「おお、いいぞいいぞ！」と永渕先生から教わった子どもの持ち味を実感し、発見出来たこと、学んだことを生かされたことが嬉しくて心の中でガッツポーズをして

います。永渕先生の授業は一つ一つが丁寧で、様々なものの見方には刺激を受けることばかりでした。小さい頃からの夢だった保育士という仕事への憧れや思いもさらに強くなったことを覚えていますし、入るなら絶対に永渕先生のゼミ！と心に決めていました。
ゼミに入ってからには特に卒業論文制作でお世話になりました。私のこだわりを理解し、納得がいくまで向き合ってくれて下さり、その時間は今でもとても大切な思い出です。たくさんのご指導本当にありがとうございました。



いつも授業は仲良し3人で並んで受けて、3人共がゼミ生に。人とのつながり方がうまく「めぐ(萌)ライン」で友達と情報共有し、公立に就職したい学生を引っ張ってくれました。大和高田市の総合遊具づくり共同研究事業にも参加し、一緒に議論したり幼稚園訪問に行ったりしたことも楽しい思い出です。人と関わるのが大好きで、お酒にも強く、いつも一生懸命に頑張りぬく澤谷さんに今後の活躍を期待しています。

西川 雅代 先生「関西中央高等学校 新体操部監督」
感謝



中井 沙季さん
関西中央高等学校
特別進学コース3年生在籍
新体操部所属

私は高校3年間、新体操部に所属していました。今年は念願の国体に奈良県代表として出場することができました。しかし、国体に出場するまでの新体操生活では、上手くいかないことが多かったです。試合でも練習でも自分の納得する演技ができず、苦しんでどうしたらよいのか分からぬ時もありましたが、西川先生や仲間

言葉に何度も助けられました。私が目標を見失いかけた時や多くの挫折をして嫌になった時、進むべき道を間違えそうになった時も西川先生はいつも正しい道へ導いてくださいました。そして人として謙虚であること、素直であることの大切さを教わりました。私は大学入学後も新体操を続けますが、この3年間の貴重な経験をこれからの自分の土台として、大学では「全国のトップレベルで活躍できる選手」を目指して頑張っていきたいと思います。そして今こうやって自分がやりたい事をできる環境にいる事に感謝する事を忘れず、生活をしていきたいです。



沙季の3年間を思い返すと、ただひたすら必死な1年目、責任の重さに苦しむ2年目、自信をつけ、結果を出す喜びを味わう3年目だったと思います。厳しい練習についてくるだけでなく、勉強との両立も家族総出で乗り越えてくれ、私にとって自慢の選手です！
底抜けに素直で、直向きな沙季。限界は自分が決めるもの！日の丸を胸につけられるよう、大学でも活躍を願っています！
少年よ大志を抱け!!

畿央大学

2日(土) 後援会総会・保護者懇談会
 16日(土)・17日(日) オープンキャンパス
 24日(日) 運動器リハビリテーションセミナー
 ナー上肢・体幹編
 26日(火) 田原本町との包括連携協定
 調印式
 30日(土)・31日(日)
 ニューロリハビリテーション研究会
 田原本町との
 包括連携協定



田原本町との
包括連携協定

関西中央
高等学校

8日(金) 「いのちの大切さ」を考える教
 育講演会
 8日(金) SSSP夏期講習
 14日(木) 夏期講習(特進)
 20日(水) 終業式
 30日(土) 第1回
 オープン
 スクール
 教育講演会



教育講演会

畿央大学
付属幼稚園

1日(金)・12日(火)
 Kioオープンガーデン
 4日(月) 七夕まつり
 7日(木) 七夕保育参観
 16日(土) 第1回親子交流会
 20日(水) 第1学期終業式
 24日(日) 25日(月)
 お泊り保育
 (年中組)
 お泊り保育



お泊り保育

7月

8月

9日(火) 現代教育研究所主催「学びを
 結ぶワークショップⅣ」
 13日(土)・14日(日)
 オープンキャンパス
 25日(木) 教職員のための夏の公開講座
 27日(土) ひらめき☆ときめきサイエンス
 ひらめき☆ときめきサイエンス
 ひらめき☆ときめきサイエンス



ひらめき☆ときめきサイエンス

9日(火) 12日(金)
 吉野山勉強合宿(特進)
 19日(金) 桜井市本町通り商店街フイ
 ルドワーク
 24日(水) 始業式
 27日(土) 第2回オープンスクール
 夏期進学合宿



夏期進学合宿

6日(土)・19日(金)
 Kioオープンガーデン
 7日(日) 第2回親子交流会
 23日(火) 26日(金)・29日(月)・30日(火)
 夏期自由保育
 27日(土) 清掃奉仕日
 夏期自由保育



夏期自由保育

9月

6日(火) 畿央大学シニア講座
 11日(日) オープンキャンパス
 畿央大学シニア講座



畿央大学シニア講座

9日(金) 10日(土) 蘭桜祭
 10日(土) 第3回オープンスクール
 12日(月) 21日(水)
 校内合宿教育(2年生)
 17日(土) 校外授業(3年生表現・情報)
 23日(金) 生徒会立会演説会
 30日(金) 体育祭
 体育祭
 蘭桜祭



蘭桜祭

1日(木) 第2学期始業式
 2日(金) 3日(土)
 卒園旅行(年長組・国立管
 青少年自然の家)
 6日(火) Kioオープンガーデン
 17日(土) 家族参観日
 卒園旅行



卒園旅行

10月

1日(土)・2日(日)
 ニューロリハビリテーションセ
 ナー機能編B
 9日(日) オープンキャンパス
 22日(土)・23日(日)
 畿央祭・ウエルカムキャンパス
 30日(日) 運動器リハビリテーションセ
 ナー下肢編
 畿央祭



畿央祭

4日(火) 生徒会交代式・国体社行会
 5日(水) 進路ガイダンス(2年生)
 8日(土) 保護者対象進路説明会
 (2年生特進)
 21日(金) 22日(土)
 生徒会リーダー研修会
 27日(木) 校外授業(1年生表現・情報)
 28日(金) 薬物乱用
 防止教室
 29日(土) 第1回
 入試説明会
 生徒会交代式



生徒会交代式

9日(日) 運動会
 19日(水) Kioオープンガーデン
 20日(金) 秋の遠足(生駒山上遊園地)
 30日(日) バザー
 運動会



運動会

11月

27日(日) オープンキャンパス
 オープンキャンパス(一般入試対策講座)



オープンキャンパス(一般入試対策講座)

2日(水) クリーンキャンペーン
 5日(土) 保護者対象進路説明会
 (1年生)
 12日(土) 第2回入試説明会
 19日(土) 第3回入試説明会
 21日(月) 24日(木)
 修学旅行(2年生)
 26日(土) 桜井ノブほんまちフェスタ
 30日(水) 避難訓練
 クリーンキャンペーン
 修学旅行



修学旅行

8日(火)・26日(土)
 Kioオープンガーデン
 11日(金) 警察・消防署訪問
 25日(金) 子ども成長・造形展
 子ども成長・造形展



子ども成長・造形展

12月

3日(土) ニューロリハビリテーション研究
 会
 18日(日) プレ・エントランスセミナー
 理学療法特別講演会
 理学療法特別講演会



理学療法特別講演会

1日(木) 創設の心を偲ぶつどい
 3日(土) 第4回入試説明会
 17日(土) 第1回入試対策説明会
 18日(日) 桜井冬のプチ文化祭
 22日(木) 終業式
 24日(土) 第2回入試対策説明会
 創設の心を偲ぶつどい



創設の心を偲ぶつどい

2日(金) おもちつき大会
 8日(木) 交通安全人形劇
 12日(月) クリスマス会
 15日(木) マラソン大会
 22日(木) 第2学期終業式
 クリスマス会



クリスマス会

■ 関西中央高校 2017年度入試概要

特別進学コース 60名

進学コース 140名

受験形態	専・併	コース名	科目型	受験科目	面接
推薦入試	専願	全コース		作文	有
一般入試	専願	特別進学コース	5科目型	国・英・数・社・理	有
		進学コース	3科目型	国・英・数	有
	4科目型		国・英・数・社	有	
	併願	特別進学コース	5科目型	国・英・数・社・理	無
進学コース		3科目型	国・英・数	無	
	4科目型	国・英・数・社	無		

※一般入試の筆記試験科目は100点満点の45分間で実施します。

※作文の2016年度テーマは「私が描く高校生活」、「私の歩んできた道」でした。

※進学コースの合格判定は3科目型の各100点の300点満点で行います。4科目型を受験した場合は数・社の高い得点を英・国に加えて判定します。

※出願の際、特別進学コースを第一希望に選択した場合、第二希望に進学コースを選択できます。特別進学コースに不合格になった場合、進学コースの得点に換算して進学コースのラインを上回っていれば、進学コースで合格となります。

■ コースの新設

2016年度入試では特別進学コース、表現・情報コース、スタンダードコースの3つのコースの募集をしていましたが、2017年度からは表現・情報コースとスタンダードコースを統合して「進学コース」を新設します。

関西中央高校では5年前から中期計画を策定して、学力を伸ばす学校を目指してきました。そのI期生、II期生が大学入試でも大きな成果を出しています。国公立大学、関関同立、産近甲龍などにも合格者が出るようになり、学校内でも放課後に部活動以外にも勉強に専念している生徒も多くなりました。また、授業が無い時も学校を開放して、勉強を365日できる環境を教職員一同で作っています。そのような関係で高校卒業後に進学を選ぶ生徒が年々増加し、表現・情報コースとスタンダードコースも進学に軸足を置いていく必要が出てきたため、二つのコースを統合して「進学コース」を新設しました。そこで、進学コースの選択科目の中に表現・情報コースの「表現する力、伝える力」を養成する科目、スタンダードコースの「社会に役に立つ力」を養成する科目を設置・選択することで、2つのコースの良いところを残したコースになっています。

■ ファミリー入試制度(推薦・専願)

下記のいずれかに該当する受験生は受験料(15,000円)・入学金(100,000円)を免除します。

- 本人が畿央大学付属幼稚園の卒園生
- 家族(2親等以内)が本学園の幼稚園、高校、短大、大学の卒業生または在校生



■ 関西中央高校生の頑張りトピックス

- 中学校の成績が平均以下だった生徒が同志社大学合格
- 中学校の成績が平均ぐらだった生徒が国公立大に合格
- 数学を苦手にしてきた生徒が入学後半年で偏差値20以上アップ
- 創部4年目の新体操部が近畿大会準優勝、来春全国大会出場決定、国体選手3名選出
- ソフトテニス部は奈良県新人大会女子団体準優勝、近畿インドア大会団体戦初出場
- 野球部は平成28年春季近畿地区高等学校野球大会奈良県予選ベスト4
- 剣道部は近畿大会出場、国体メンバー1名選出

■ 畿央大学 2017年度入試結果と概要

公募推薦入試結果(全日程の合計)

学部	学科	人員募集	志願者			受験者		合格者		倍率	
			2017	2016	前年比	2017	2016	2017	2016	2017	2016
健康科	理学療法	29	406	443	91.6%	405	443	65	52	6.2	8.5
	看護医療	40	671	577	116.3%	671	567	85	85	7.9	6.7
	健康栄養	40	518	615	84.2%	517	613	61	71	8.5	8.6
	人間環境デザイン	22	229	270	84.8%	228	269	46	38	5.0	7.1
教育	現代教育	85	875	882	99.2%	872	880	122	140	7.1	6.3

■ 一般入試・センター試験利用入試日程

試験区分・日程	試験日	受験会場	出願期間(消印有効)	合格発表日	
一般入試	前期A日程	1月22日(日)	本学・名古屋・京都・大阪・岡山	12月22日(木)~1月12日(木)	2月2日(木)
	前期B日程	1月23日(月)	本学・京都・大阪		
	前期C日程	1月25日(火)	本学・京都・大阪		
	中期日程	2月19日(日)	本学・大阪	1月30日(月)~2月10日(金)	2月25日(土)
	後期日程	3月10日(金)	本学・大阪	2月20日(月)~3月3日(金)	3月16日(木)
センター利用入試	前期日程	—	独自試験なし	12月22日(木)~1月12日(木)	2月5日(日)
	中期日程	—		1月30日(月)~2月10日(金)	2月25日(土)
	後期日程	—		2月20日(月)~3月3日(金)	3月16日(木)

■ 3年次編入学試験日程(教育学部)

試験区分	募集人員	試験日	受験会場	出願期間(消印有効)	合格発表日
後期日程	1名	2月5日(日)	本学	1月16日(月)~1月27日(金)	2月11日(土)

■ 畿央大学大学院 2017年度入学試験概要

募集人員

課程	募集人員		修業年限
	1期	2期	
健康科学研究科修士	15名	5名	2年
健康科学研究科博士後期	3名	2名	3年
教育学研究科修士	7名	3名	2年

入学試験日程

試験区分	試験日	受験会場	出願期間(消印有効)	合格発表日
2期	2月5日(日)	本学	1月12日(木)~1月24日(火)	2月11日(土)

■ 公募推薦入試結果

2017年度入試シーズンをむかえ、11月には前半戦のヤマ場となる公募推薦入試が実施されました。近年、大学卒業生の就職が好調に推移していることから、受験生の動向では、文系、特に社会科学系の人気が高くなっています。その影響を受け、資格系や就職に強い学部・学科の人気はややダウンしている状況が見受けられ、畿央大学の公募推薦入試志願状況にもその影響があらわれています。公募推薦入試の志願者は、前年度と比較すると全体で3.2%の減少となりました。志願者が増加したのは看護医療学科、逆に減少は理学療法、健康栄養、人間環境デザイン、現代教育学科となっています。

学科ごとに見てみると、理学療法学科の志願者数は前年比マイナス8.4%となりました。医療技術系は全国的にも受験生が減少傾向のようであり、畿央大学と比較的競合関係の強い多くの大学で公募推薦入試の志願者が減少しています。倍率では、理学療法学科の合格者数が前年より増えていますので、2年前の9.2倍→前年8.5倍→6.2倍と、かなり緩和されています。例年、難度の高かった理学療法学科ですが、今年は若干易しくなったようです。

看護系の学科は全国的に志望動向が高くなっています。本学の志願者数については前年減少の反動もあり16.3%の増加となりました。倍率は7.9倍と前年の6.7倍よりアップしています。志願者にとっては厳しい入試となりました。

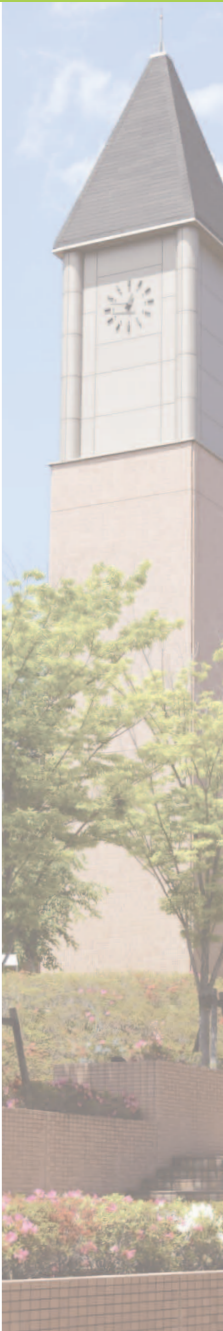
近畿地区の管理栄養士養成課程の受験生は減少傾向のようであり、畿央大学健康栄養学科も約16%の志願者減となっています。ただ、合格者数も若干絞り込まれたため前年並みの倍率となり、依然厳しい入試となりました。

人間環境デザイン学科の志願者は昨年の志願者増加と難化の反動で減少しました。ただし、倍率では5.0倍と前年の7.1倍よりは緩和されていますが、依然高い倍率となっています。

大学卒業生の就職が好調に推移していることから、文系の中でも教育系統の学部・学科については受験生が減少傾向となっています。畿央大学の現代教育学科では、わずかですが減少し2年連続の志願者減少となりました。ただし、合格者数も減少したため、倍率はアップしています。

■ 大学院の入試について

9月に行われた大学院1期入試の志願者数は、健康科学研究科、教育学研究科を合わせると昨年より5名増加しました。博士後期課程においても2名増加と順調に推移しています。2月には2期入試が実施されますが、問い合わせも徐々に増えてきているので志願者の増加が期待されます。



畿桜会

畿央大学・畿央大学大学院・畿央大学短期大学部
桜井女子短期大学同窓会



10月22日(土)・23日(日)に開催された第14回畿央祭にあわせて、畿央大学・畿央大学大学院・畿央大学短期大学部・桜井女子短期大学の卒業生を対象に「同窓会サロン」を開設しました。
22日(土)108名、23日(日)196名、あわせて304名もの卒業生の皆さんにお越しいただきました。(畿央大学卒業生280名、桜井女子短大18名、畿央短大5名、大学院1名)
サロンの受付は、毎年同窓会の役員

が担当しています。今年度、同窓会では、畿桜会ロゴ入りボールペンを作成しました！アンケートにご協力いただいた方には、このボールペンと、畿央祭の金券1000円、お茶ペットボトルをお渡ししました。
恒例のガラガラ抽選会の景品は、美容家電(マッサージ機)、焼き菓子、アールコールなど。お子様にはハロウィンお菓子をお配りしました。当選された方、おめでとうございます。

ご夫婦、ご家族での参加、お子様、お孫さん連れの卒業生も多く、また時折、先生方もサロンに立ち寄りくださって、懐かしい恩師や旧友との再会の場となりました。
また、卒業生から先生へのメッセージを預かったり、畿央祭に来られない先生方から、母校に遊びに来てくれた卒業生を歓迎するメッセージを掲示させていただきました。
次回、畿央祭同窓会サロンは2017年10月21日(土)・22日(日)に開催します。

来年度の総会は2017(平成29)年5月21日(日)です。多数のご出席お待ちしております。



蘭友会

関西中央高等学校・桜井女子高等学校同窓会



大寒を過ぎ身の縮むような酷寒の毎日ですが、会員の皆様におかれましては、ご健勝のこととお慶び申し上げます。さて、昨年は、50回目となる蘭友会総会を行いました。たくさんのご参加、ありがとうございます。また、総会で蘭友会館の建設についてお知らせさせていただきました。

蘭友会館の建物については、昨年の総会記念品としてお渡ししたクリアファイルに掲載した完成図に伴って話を進めております。次回総会では具体的な説明ができると思います。蘭友会館完成を楽しみにしつつ、今年の蘭友会総会にご参加よろしくお願いたします。

何かとご多忙のことは存じますが、同窓生としての絆が強まるためにも、一人でも多くのご参加をいただきますようご案内申し上げます。

畿桜会主催
「第10回理学療法特別講演会」を開催

理学療法学科4期生代表幹事 山野 宏章
(南大阪病院 勤務)

平成28年12月18日(日)に畿央大学にて畿桜会(同窓会)主催の「理学療法特別講演会」が開催され、約50名の参加がありました。(卒業生28名、在学生5名を含む)講師には、理学療法学科1期生で平成記念病院リハビリテーション科勤務の徳田光紀先生をお招きし、「大腿骨頭部骨折術後の理学療法の理論と実際」というテーマで講演いただきました。

徳田先生は畿央大学大学院健康科学研究科博士後期課程の第1号の修士生でもあり、現在は畿央大学の客員研究員も務めておられます。前半は現在報告されている最新の情報をたっぷり示していただき、後半は徳田先生の臨床における取り組みをご紹介いただきました。

徳田先生が取り組んでいる「物理療法分野」の話がたくさん出てきましたが、私自身の知識不足もあり、ここまで多くのエピソードがあることを知りませんでした。しかし、今回講演を聴いた事で、まだまだ自分が患者様にできることがたくさんあるな、と明日からの臨床や研究に対して、とてもモチベーションが上がりました。

講演後は学生食堂にて、懇親会を行いました。各職場のことや研究のこと、何気ない日常の話まで先輩・後輩の隔たりなく話して盛り上がりました。こうして「卒業生が帰ってくる場所がある」ことがありがたいと感じました。今後も同窓会役員として卒業生が気軽に集まれる場を作っていきますので、是非みなさん集まりましょう！



蘭友会 総会のご案内

平成29年4月16日(日)10時～

- 総会
- アトラクション
ヘルマンハーブの調べ ～演奏とお話～
日本ヘルマンハーブ振興会 会長 梶原 千沙都
- 立食による懇親会



平成28年度 同窓会にて

卒業関連行事

関西中央高等学校

表現・情報コース 卒業記念公演

舞台作品『幕が上がる』

映像作品『チョコレート戦争』

～とある年の2月14日～

1年生は、「立体的な朗読」に挑戦します。2年生は、「集団創造」の可能性を模索します。3年生は、「卒業記念公演」で三年間の集大成を披露します。

自分に向き合い、少し成長した高校生姿を会場でご覧ください。



日時 2月22日(水)
13:30～16:00
終演予定

会場 橿原文化会館
(入場無料)

畿央大学

2016年度 人間環境デザイン学科

『卒業研究・作品展』

45点が出品予定です。2017年3月卒業生の力作を見に来てください！

日時 2月25日(土) 2月26日(日)
10:00～18:00 10:00～16:00

会場 奈良県文化会館D展示室
(入場無料)



畿央大学附属幼稚園

生活発表会

毎年恒例の生活発表会が今年も桜井市民会館で開催されます。マーチング、歌、英語の歌、オペレッタや和太鼓など、日頃の保育の成果をご覧ください。

日時 3月4日(土) 8:30開場・9:00開演

会場 桜井市民会館 (入場無料)



昨年の生活発表会の様子

第15回 畿央大学公開講座

講座A 「長引く腰痛の科学的なリハビリとは？」

ニューロリハビリテーション研究センター

助教 大住 倫弘

日時 2月24日(金)
10:00～11:30 受付 9:30～

会場 P301講義室 (入場無料)

講座B 「親子で体験 ロボットを使って速さを学ぼう」

教育学部現代教育学科 准教授 奥田 俊詞

健康科学部看護医療学科 教授 福森 貢

日時 3月4日(土)
10:00～11:30 受付 9:30～

会場 KB01講義室 (入場無料)

小学
4～6年
対象

講座C 「子どもがちゃんと見えていますか～保護者として、保育者として、子育て・保育セミナー～」

教育学部現代教育学科 准教授 永渕 泰一郎

日時 3月4日(土)
10:00～11:30 受付 9:30～

会場 KB04講義室 (入場無料)

詳細については、2月初めごろに畿央大学HPに掲載します。【問い合わせ先】 畿央大学教育推進部 TEL : 0745-54-1601